

すべての女性が輝く明日のために

JAUW会報

第274号
2021年11月



一般社団法人
大学女性協会



特集 全国セミナー

- | | | | |
|---------------------------|---|---------------------------------|---|
| 企画委員長挨拶、アンケートから…………… | 2 | ヒューマン・ストーリー第7回 …………… | 6 |
| 基調講演、プログラム…………… | 3 | 中村久瑠美元会長 | |
| 調査・研究委員会～オンライン勉強会、………… | 4 | 支部活動—コロナ禍のなかで—…………… | 7 |
| 国内奨学生報告会、 パラリンピック銅メダル！ | | 新潟支部、茨城支部、 第1回オンライン全国支部懇話会 | |
| Jカフェ第9回・10回報告、…………… | 5 | 役員候補者推薦のお願い…………… | 8 |
| 天満敦子コンサート | | 寄付者ご芳名、新春のつどい等催事、 理事会から、新入会員 | |



2021年度 一般社団法人 大学女性協会 全国セミナー

教育・ジェンダー・共生

—コロナ後の共生社会を支える教育—



日時：2021年11月14日（日）10：00～16：30

会場：エッサム神田ホール1号館401大会議室、オンライン併用

コロナ後の私たちはどう変わるか、変わることができるか

企画委員長 城倉 純子



コロナウイルス感染症の拡大が始まって2年、混乱のさなか自己を見失うことのないように大切な日常をどう過ごし乗り越えるかで皆が必死でした。本年度の全国セミナーを無事開催できます喜びを

皆さまと共有し合えますことに、心からの感謝を申し上げたいと思います。

当協会は2年ごとにテーマを設定し、初年度にシンポジウムで課題を提起、翌年の全国セミナーで各取組みの成果を報告し討議するとのサイクルで進めてきました。企画委員会が企画立案と内容の構成を行い、実行委員会が事前・当日・事後の進行を支えるとの仕組みをとっています。

今回のメインテーマ「教育・ジェンダー・共生」は、2018年度から掲げて取り組んできたものです。サブテーマは、「誰ひとり取り残さない共生社会を創るために」「あらゆるハラスメントを乗り越えるために」「コロナ禍を契機にみえ

てきた教育の本質」「コロナ後の共生社会を支える教育」と続き、同時代に生きる私たちを強く意識し、各時期の社会課題を浮き彫りにしたと考えています。

昨年度シンポジウムの基調は、コロナ禍が私たちに投げかけた意味を模索、「いのち」の大切さや、人間は生きものだがすべての生きものの上でも下でもないと、傲慢に地球を席卷してきた人間存在の原点を見据えるものでした。

現在、私たちに突きつけられたものはあまりに大きく、厳しい変化が要求されています。乗り越えられたかのような今、私たちは「より良く変わる」ことができたといえるのでしょうか。数度の緊急事態宣言下で在宅を強いられ、社会は急速なデジタル化を進めましたが、その功罪は吟味されないまま、否応なしの流れが勢いを増しています。今回のサブテーマ「コロナ後の共生社会を支える教育」において、その流れを改めて見直し、疲弊した社会を担う次世代を育む教育はどうあるべきか、参加のお一人おひとりにとって意義あるセミナーにすべく、貴重な情報交換の場となるよう努めたいと思います。企画委員、実行委員の懸命の努力と、会員の皆さまのご協力に支えられ、本日を迎えることができましたことに心より感謝を申し上げます。

アンケート「コロナ後の共生社会を支える教育を考える」 集計結果

新型コロナウイルス COVID-19感染症によって、世界各国のデジタル化の進捗状況の実態が図らずも露呈されました。この“デジタル化”は今後の社会の発展のためのキーワードになりそうです。そこで、大学女性協会では、今年度のセミナーのテーマに合わせ、教育界でのデジタル化に関わる諸問題について、みなさまのご意見集約のためのアンケートを2021年9月に、実施いたしました。

回答をお寄せくださった皆様に深く感謝いたします。

集計結果は、2022年3月に刊行されるセミナーの報告書に掲載します。ここでは、回答の一部を紹介します。

1. 回答数（会員112、賛助会員3、その他35、計150名）

2. 年代別

| | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|-------|
| 30歳未満 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代 | 80歳以上 |
| 4名 | 5名 | 15名 | 24名 | 34名 | 48名 | 20名 |

3. 設問-1. GIGA スクール構想についてのあなたの考えはどれですか。（複数回答可） 総回答数230／人数150名

| | | |
|---|------|-------|
| ICT先進国に追いつくために、なるべく早く実現するべき | 43名 | 28.7% |
| 全国の小中校生に iPad などの一人一台のパソコンが行きわたった現状を考えると、教材などの開発を急ぎ、リモート授業がうまくいく環境を早急に整えるべき | 102名 | 68% |
| ICT に関して地方格差や家庭格差が存在する現状では、GIGAスクール構想を全国一律に行うのは困難 | 51名 | 34% |
| 日本の現状では、拙速な実現は却って弊害を生むので、むしろコロナ禍を考慮した対面型授業の環境を整えるべき | 23名 | 15.3% |
| わからない | 10名 | 6.7% |
| 無回答 | 1名 | 0.7% |

（企画委員会 嶋田君枝 記）

多様なロールモデルの育成を目指して



私が所属する石川県立大学は、農学を基盤とする生物資源環境学部からなる単科大学で、学部学生の約5割が女性です。私の研究者としての道のりを振り返ることにより、農学系の女性研究者としての具体的な像をご紹介できればと考えています。

以前、東大農学部在籍していた時、教養学部の進学情報センター主催シンポジウム「私はどのようにして専門分野を決めたか」で話をしました。そのとき改めて「なぜ農学部の農芸化学科に進学したのか」を振り返ることになりました。その原点は「世のため、人のためになることをしなさい」と幼い頃から祖父に言い聞かされ続けていた言葉にあったと思います。

明治17年、沖縄で生まれた祖父は、沖縄県の国頭農学校に第一期生として入学し、同校を卒業した後、米国ワシントン州シアトルに渡って、ワシントン州立大学の研究者の指導のもとに牡蠣の養殖について学びました。その後、カナダのバンクーバーに移り、「ローヤル漁業会社」を設立して牡蠣養殖事業を始めました。大正2年、日本に帰国後、牡蠣養殖の実体験を持つ民間の技術者として、農商務省所管の水産講習所の研究者と共に研究を進め、「牡蠣の垂下式

養殖法」を開発しました。これは「カキ養殖技術の展開に最も大きな役割を果たした技術開発」と言われています。また、全国を廻ってこの技術の普及にも努めた結果、垂下式牡蠣養殖法は広島県や宮城県石巻市で急速に展開普及し、現在のように旬の牡蠣を多くの消費者が楽しめる時代を迎えることが出来たとされています。

私が、農学部の水産学科ではなく農芸化学科を志望したのは、宮沢賢治に魅了されていたからです。盛岡高等農林を卒業した宮沢賢治の専門は「土壌肥科学」であり農芸化学科でした。ということで、私は農芸化学科に進学し、植物栄養肥料学研究室に所属し、植物栄養学の道へと進みました。

また、進路を決める際に大きな影響を与えたのは中学校時代の恩師、土肥暢子（旧姓大城）先生でした。大城先生は当時東大文学部を卒業なさったばかりの若くて明るい社会科学の先生で、生徒達にとっても人気があり、私の卒業時にはクラス担任をしてくださっていました。何かの折に先生から「貴女、東大に行きなさい。東大は面白い人達がいっぱいいる楽しいところよ」と。西洋史を専攻し、東大では運動会スキー山岳部で活動していらっしやったという先生らしいお言葉でした。

詳しくは後日発行の報告書をお読みください

プログラム

- | | | |
|--------|--|--|
| 10:00- | 開会 総合司会：森川淳子副会長（東京） 会長挨拶 加納孝代会長（東京） | *「信頼」の土台の上に立つ教育 永倉みゆき 静岡県立大学短期大学部教授（静岡） |
| 10:10- | 基調講演 西澤直子 石川県立大学学長（東京） *多様なロールモデルの育成を目指して | *誰一人取り残さないために 鈴木千鶴子 長崎純心大学客員教授（長崎） |
| 11:40- | セッションⅠ 連携活動の報告 *GWI 鈴木千鶴子 CIR（長崎） *男女共同参画推進連携会議 山下いづみ（静岡） | 14:30- セッションⅢ 委員会・支部による発表 *調査・研究委員会「教育における共生を考える」 勝又幸子委員長（静岡） |
| 12:10- | 休憩 | *長崎支部「コロナ禍の中での女性」 中田慶子会員（長崎） |
| 13:00- | セッションⅡ 現場からの報告と展望 司会：城倉純子副会長（茨城） *コロナ禍における工学部の講義・演習・学生実験 香取浩子 東京農工大工学部教授（東京） | *企画委員会「コロナ禍アンケート集計結果」 城倉純子（茨城）・嶋田君枝（神奈川） |
| | | 15:40- 閉会 |
| | | 15:45-16:10 懇談会 [Zoom] 司会：山下いづみ理事（静岡） |



鈴木千鶴子 山下いづみ 香取 浩子 永倉みゆき 勝又 幸子 中田 慶子 嶋田 君枝

*報告書は例年通り年度内に作成します。会員外の方には実費と送料負担でお頒けしますので、事務局までお問い合わせください

オンラインで実現！全国から講師を招聘して勉強会開催 調査・研究委員長 勝又幸子

調査・研究委員会では9月までに3回のオンライン勉強会を行いました。勉強会は公開で、大学女性協会のホームページ啓発提言の下、調査・研究のページで、開催チラシを掲載、勉強会終了後は、講師提供資料、委員会メンバーがまとめた概要、事後アンケートのまとめを掲載しています。https://www.jauw.org/activity_category/report/

第1回8月8日「日本語教育の現状と課題 ～日本語教育・学習体制をいかに整備すべきか～」講師は西原鈴子さん（NPO法人日本語教育研究所理事長）第2回9月8日「外国にルーツのある子どもたちの教育の現状と課題 ～保護者支援の必要性と実態～」講師は菊池寛子さん（西尾市教育委員会・日本語教育指導アドバイザー、日本語初期指導教室カラフル室長）第3回9月19日「日本語教育・学習体制をいかに整備すべきか ～外国にルーツのある子どものことばと学びを支える～」講師は石井恵理子さん（東京女子大学 現代教養学部 心理コミュニケーション学科教授、文化審議会国語分科会日本語教育小委員会主査）。勉強会では、専門家や実践の現場にいるみなさんのお話を聴き、委員会が出した4つの提言の課題をより鮮明に認識できました。**4つの提言**：①日本語を教えることのできる支援員の小中学校への配置を促進すること ②進学を含むキャリア相談と指導を充実すること ③すべての自治体に日本語教育コーディネーターの設置を達成すること ④ジェンダーの視点にたった、保護者の支援を行うこと

東京支部・国内奨学委員会・社会福祉委員会共催

2019年度 JAUW 国内奨学生による 報告会—新型コロナ禍での勉学・研究と進路—

社会福祉委員 縄田真紀子

9月12日（日）、2019年度のJAUW国内奨学生による報告会がZoomにより手話通訳を入れてオンライン開催されました。

国内奨学・社会福祉委員会では、従来から奨学生の方々に1年が経過した時点で研究成果報告書を提出いただいております。今年はコロナ禍と重なった1年となり、今までにない時間を過ごされたことと思います。

奨学生の出町未央さん（ホームズ奨学生：現 津田塾大学学芸学部助教）、今野安里紗さん（一般奨学生：現 学術振興会特別研究員DC2）、藤原奈津子さん（社会福祉奨学生：現 武庫川女子大学大学院）、松岡琴乃さん（社会福祉奨学生：現 明治学院大学4年）の4名の方からお話を伺いました。このような厳しい状況下にもかかわらず、勉学・研究・進路活動に真摯に取り組まれ、工夫され成果をあげられて

いる姿は、奨学金事業担当として万感の思いです。

コメンテーターとして、学生指導の立場から羽生香織先生（国内奨学委員：現 上智大学法学部教授）、社会福祉の立場から小林洋子先生（2013年度社会福祉奨学生：現 筑波技術大学講師）のおふたりにお出でいただき、全身全霊でオンライン授業・学生指導等に当られたお話やオンライン授業・研究の可能性等々お聞かせいただきました。

手話通訳は、小松智美さんと瀬戸口裕子さんにお願いました。充実した報告会となり嬉しく思います。

70名あまりのご参加を得、歴史ある国内奨学金への関心の深さを感じました。奨学事業の継続と充実に努めたいと思います。皆様の一層のご研鑽とご活躍を願っています。

パラリンピック 銅メダル！

筑波大学大学院生 高橋利恵子
2017年度社会福祉奨学生

東京2020パラリンピック大会にゴールボールという視覚障害のある選手がプレイする競技の選手として参加させていただきました。ゴールボールは鈴の入ったボールを互いのゴールに向けて転がしあい、点数を競う競技です。パラリンピックは視覚障害のある選手しか参加できませんが、アイシェードをつければ誰でも同じ条件でプレイすることができ、国内大会は晴眼者選手も参加します。

今回、東京で開催されたことで多くの方に注目していただき、認知度が上がったのではないかと思います。私自身も本当に多くの方に応援いただき、パラリンピックが終わった今でも、「これからも応援しています」と声をかけてもらうことが多くありました。また、私自身の地元の盲学校からも多くの応援をいただき、今年はゴールボールを体育の授業で取り組みたいと言ってくださいました。私が在籍していた当時は、ゴールボールができなかったため、大きな進歩となりました。

私は、将来、特別支援学校の教員とな

り、障害のある子供たちの将来の選択肢を増やしたいと思っています。今回の大会を通して、ゴールボールを多くの人に知っていただき、視覚障害のある子供たちには、自分もなりたいたいという1つの選択肢を持つきっかけになったのではないかと思います。そして、多くの人たちにパラスポーツの魅力が伝わり、携わりたいと思ってくださる方も増えました。これから、障害のある人とない人が共に楽しめるパラスポーツを広め、スポーツを通じて、共生社会を考えていきたいと思っています。



Jカフェ第9回 2021年6月27日

「カズオ・イシグロを長崎で読む」

講師：CIR 鈴木千鶴子



茨城支部 牧島悠美子

6月27日の午後、鈴木千鶴子理事(写真)を講師に迎え、「カズオ・イシグロを長崎で読む～多彩な語り手と移り変わる視点の意味～」のテーマで講話を頂いた。ノーベル

賞受賞後にイシグロのいくつかの読書会が生まれ、鈴木理事も複数の読書会に所属しているとのこと。Jカフェの参加者も、受賞を機に「日の名残り」「私を離さないで」など何冊か読んだ人が多かったが、一言でいえばイシグロの本は判りにくい。語り手も多彩で最初から十分理解して読み始めることは少ない。途中でこれは臓器移植のために生かされている人たちの話らしいと、やっと分かってくる。このようなテーマと理解のしにくさから途中で投げ出す人も少なくない。

原爆投下9年後に長崎で生まれたイシグロは、父の転勤でイギリスへ渡る5歳まで、幼少期を長崎で暮らした。母は被爆体験者であり、「原爆の恐ろしさ」などを伝えられ、育った。その恐れや記憶、忘却に関してもイシグロ独特の思いがある。

鈴木講師の書物の分析方法には語句の頻出度を数え、作者が何に注目しているか、大事に考えているかなどを考察する方法がある。今回「漂う(float)」の語に着目し分析・考察している。鈴木講師の話をもた聞きたいという参加者が多数あった。オンラインでの提供だったため、遠隔支部からの参加者も多く、盛況であった。

Jカフェ第11回のお知らせ 12月18日(土) 14:00~16:00 (Zoom)、講師：加納孝代氏、テーマ：『若草物語』のジェンダー論、参加費：1,000円

Jカフェ第10回 2021年9月29日

「私が理系を選んだわけ、そしてその後」

講師：奨学担当理事 岩村道子



茨城支部 松本由美子

岩村道子理事(写真)が理系を選んだのは実家が商家でお母様の苦勞を見て育ち、経済的自立を目指したこと。加えて当時の社会が国挙げて理工系ブームだったこと

が動機とのことでした。

その後子育てをしながら東邦大学での研究生活。通勤時間が往復3時間、37年間の研究生活を支えたのはご自身が研究に面白さを見出し、閃きを見逃さず、新しい分野での「アハ(aha=ああそうか)体験」が二つあったからとお聴きし、充実した研究生活を伺い知ることができました。

「女性研究者の奨励」について、猿橋賞とともにJAUWの守田科学研究奨励賞も挙げておられます。また「女性研究者と科学の未来」プロジェクトでは、大学自然系学部・大学院修了の女性たちの現状と支援策を調査。しかし、日本の女性研究者の比率は2007年度(11.6%)から2019年度(16.9%)と少しは上がったものの、思うように伸びてはいないとのこと。「たとえ理系に進む学生が増えても、現状では女性研究者を増やすことは難しい」「頑張っても女性比率を増やす必要があるのか、娘が理工系を目指すよう育てたくはない」といった意見を紹介され、女性の進路に関するイメージの押し付けが強いこと、子育てなどの社会環境の問題点を挙げられました。

最後に、定年後始められたという趣味のラテン系の社交ダンスはとても楽しいと、笑顔がこぼれました。

天満敦子コンサート「希望はヴァイオリンの音色に乗って」

文化事業委員 小合 忍



10月21日天満敦子さんのヴァイオリン独奏会がハクジュホールにて開催されました。今回のテーマは昨年の「祈り」に続く「希望」。これは音楽を通してコロナ禍を乗り越え、明るい未来の展望を皆様に実感して頂きたいとの天満さん、加納会長、鷺見委員長お三方の強い思いにより実現したコンサートでした。

天満さんの音色は天満さんと「旦那様」のストラディバリウスとの深い信頼から生まれる唯一無二の美。「ジュピター」は壮大華麗に、「からたちの花」は可憐に、「月の沙漠」では、亡き最愛の叔母様との時空を超えた絆を、と縦横無尽の演奏を聴かせて頂きました。音楽は人の心に灯をともしものと感じました。希望がヴァイオリンの音色に乗って皆様に届きますように。





初秋の昼下がり、東京・青山にある瀟洒なオフィスビルに中村久瑠美元会長をお訪ねし、お話を伺いました。

● 大学女性協会との最初の
出会いは

幼稚園の頃から、「大学婦人協会」の名前は聞いていました。大叔母が会員だった上に当時私の叔父と再婚された中村道子さんが会員で、親類の集まりなどで婦人協会の話が時々出ていたのを子供心に

覚えています。私自身は30代で、大学の先輩の時枝裕子さんに誘われ入会したので、会員歴は長いですね。当初丸山庸子さんたちと女性の地位委員会に所属しました。

● 弁護士を志されたのは、なぜですか？

大学の専攻は美学美術史で大学院在学中に結婚出産し、仕事についたことは無く、夫のDVで離婚した時私には何の資格もありませんでした。もう一度研究室に入って学者になるか、司法試験を受けて弁護士になるかと考えたとき、女性の力になってくれる人が司法界に余りに少ないことに気づきました。世の中は男女が半々なのに、女性弁護士も裁判官もホンのわずか。これでは永久に女性は浮かべれないと思ったのがきっかけでした。

● 弁護士のお仕事をされながら、JAUW ではどのような活動をされたのですか？

弁護士業は多忙をきわめ JAUW の日常活動はあまりできずにおりましたが、94年から四年間、理事（国際第二委員会委員長）を引き受け、国内女性 NGO との連携活動をしました。'80年代から'90年代は国連を中心に女性の権利拡張の動きが急速に高まった時期で、国内の各女性団体も活発で、北京での世界女性会議もあり、私もその渦中にいた気がします。私は青木玲子さんについて初めてジュネーブのIFUW本部に行ったのが、印象深かったです。2014年から2年間会長を務めました。全国セミナーでは「女性の自立」をメインテーマに掲げ税法上の配偶者控除の是非を論議し、初めて会員拡大委員会を設けて支部毎に会員数の1割増加を呼びかけました。また創立70周年を記念し、将来の活動資金作りとして1千万円を目標に募金事業を発起し、

それが現在のパトリア募金に繋がっています。

● 大学女性協会の良さという？

95年のIFUW総会横浜大会には、美智子皇后、土井たか子衆院議長、緒方貞子さんが臨席され、それだけでもマスコミがもっと取り上げて当然なところ、本会は宣伝に走らず会員の総力でやりきったというような、地味でも堅実な点が誇りでしょ。会の活動記録をきちんと残し、全国セミナーの報告書を必ず出すところもそうです。国内24支部の全国ネットワークとGWIという海外ネットワークを持つ国際的な組織であるのも魅力です。またこの会の奨学金制度は、女性の高等教育の育成という本会の定款目的を実現する大切な事業です。「私の遺産を女性科学者のために使って欲しい」という遺言から生まれた「守田科学研究奨励賞」は会員のなかの専門の研究者たちが、応募者の中から優れた受賞者を選定し、若い女性科学者を育てている素晴らしい事業です。

● 弁護士になって良かったと思われることは？

人生の一番厳しい局面に立たされるとき、弁護士の私に親身に聞いてもらえた、助けてもらえた、幸せになったと感謝の気持ちを依頼人から言われるときほど、うれしいことはありません。離婚後の人生をどう生きるかをテーマに私の事務所を通じて離婚された方々を集めてマルイチ会を結成して22年、今はNPO法人に昇格し、シングルマザーや、シングルの方のQOLを願って活動しています。定年がないので長く仕事を続けられること、幅広く様々な方面に活動できることはこの職業の良いところかと思えます。

● 大学女性協会のこれからは何を期待されますか？

生涯学習委員会ができたのは期待できます。人生100年、会員相互に一生勉強という気持ちで本会に関わっていけば、より一層魅力ある女性協会になると思います。また守田さんにならって、会員の多くが遺言で財産の一部を本会に遺贈して、それを元に様々な分野の奨学金制度を備えるようにできたら、さらに素晴らしいと考えます。私も弁護士として相続遺言が専門でもありますので、積極的にこのプランを推奨し貢献したく思っています。

— プロフィール —

1944 東京生れ お茶の水女子大付属中高卒
1967 東大文学部卒（美術史専攻）'69同大学院修士卒（その間、結婚、出産、離婚を経て）東大法学部再入学
1975 司法試験合格、司法修習、弁護士登録
1980 米国留学 国際比較法アカデミー終了
1982 港区青山に中村久瑠美法律事務所開設
1983 大学婦人協会入会
1994~98 JAUW 理事（国際第2委員会委員長）
IFUW 横浜大会、左門町の事務所購入に尽力

2014~16 JAUW 会長

- IFUW アジア地区会議出席（シンガポール）
- 会員拡大のワークショッププログラムを学び、山下いづみCIRと共にこのメソッドをJAUWに導入、会員拡大委員会を設置
- IFUW のGWI への名称変更問題に関わる
- 創立70周年記念大会企画、記念寄付の募集を発起

— その他 —

厚労省・経済産業省・内閣府等の審議会委

員、男女共同参画推進連携会議議員、東京家庭裁判所調停員、成蹊大学法科大学院講師等歴任

— 主な著書 —

「離婚バイブル」（文春）「はじめての離婚」（講談社）、「相続と遺言の知恵」（講談社）、「家族の法律」（暮らしの手帖）、「あなたそれでも裁判官？」（暮らしの手帖、論創社）、「女性と戦後司法」（論創社）他多数

NPO法人マルイチライフ・サポートスクウェア理事長
Nakanaka Partners法律事務所 代表弁護士

支 部 活 動 —コロナ禍のなかで—

コロナ禍を経ての新潟支部

新潟支部長 鈴木裕美

本年度もコロナ禍ゆえに書面で開催された支部総会で新体制を迎えた。当支部は支部長二人体制(大淵、鈴木)。若手会員も役員に加わり、試行錯誤ながらも意欲的な活動でスタートを切れた。ICTの習得や新しい作業へのチャレンジなど、役員・会員の努力協力への感謝に堪えない。

会員のコミュニケーションの回復を念頭に、Zoomを利用した例会学習会の開催(6月、9月、1月)。6月は協力団体主催の講演会を学習会に活用し、部会に工夫を凝らしていただいた。また、本部や協力団体からの有用な情報を発信するツールにエバーノートの利用。そして年1~2回の会報の発行を年3回に増やし、オンライン例会に出席が叶わぬ高齢会員の意向聴取や内容周知に努めている。

今年度第72回を迎える支部奨学賞。若い女性研究者を応援するという大命題に関しては、9月例会学習会に、会員であり長きに渡り大学で若い研究者たちを育ててこられた五十嵐由利子監事より、小論文選考のあるべき姿勢をご指導いただいた。昨年は感染拡大防止ゆえに祝賀会が開けぬ中、ホテルから公の会場に移して心込めたかたちで奨学賞授与式を開催できたが、12月には引き続きその形式に従って贈る予定であることも、本年度の誇りである。

以前から続く他団体との連携の活動はそのままに、今後も会員のつながりを大切に、女性研究者の活躍応援に努めて参りたい。



若手役員の協力でリニューアルした会報と例会学習会の資料

生活者の目線を大切に、地域から発信

茨城支部長 安藤隆子

(一社)大学女性協会茨城支部は1948年(昭和23年)に設立され、今日に至っています。2017年にはそれまで実施した活動(調査研究・出前講座等)の集大成として、本『YOROIを脱いで』を出版しました。「男性も女性もともに人として自分らしく生きていける社会を目指して」の思いがこの本にはたくさん詰っています。最近の活動としては、①支部会員を対象としたコロナ禍におけるアンケート調査を実施。回収率81%。行動制限の中、今までの生活を見直し新しい生活を実践している会員の前向きな姿勢の声が多くありました。②オンラインによる「子育ての社会化を考える」の参加型勉強会3回シリーズで実施。子育てを孤育てにしない、子育てを孤育ちにしない、子育て子育ての社会化が今急務ではないでしょうか。③茨城県女性団体連盟35周年記念「連盟のつどい」への協力。④国連で長く仕事をしてきた常磐大学学長富田敬子氏による講演—「持続可能な開発目標(SDGs)誕生の舞台裏」—の開催。SDGsについての理解を深めることが出来ました。国連の一端を知ることでもできました。⑤水戸市男女平等参画月間講座へ応募し採用。2021のテーマ「女たちは“YOROI”を脱いだか〜ホンネの座談会」※コロナ禍のため2022年1月実施予定。⑥茨城県国際交流協会への協力等。

これら活動の根っこはJAUWの目的にあり、生活者の目線を大切に、地域から発信をしていきたいと思えます。



本年度支部総会で記念講演をする富田敬子氏。右下は2017年発刊の書籍

第1回オンライン全国支部懇話会

支部担当理事 山下いづみ

新型コロナウイルス感染症対策として会議やセミナーそして親睦など広くオンラインが活用されるようになりました。これを好機と捉えて、全国の支部活性化の一助となることを期待してオンライン懇話会を企画しました。

第1回目は8月30日(月)午後8時より90分間、加納会長、森川副会長、嶋田理事と15支部の支部長の皆様と意見交換をいたしました。話題に上がったことは、大きく4点ありました。1. 支部会員への情報提供の仕方 2. 会員継続、退会、増強 3. 大学女性協会の意義、活動 4. 大学女性協会のきまりごとについてです。

多くの支部では会員への情報提供に苦慮しているということでした。支部によっては、会員に合わせてメール、Fax、郵送で送られたり、連絡担当者がある支部や分担作業をしている支部もありました。情報量が多い中、選択が難しいところですが、取捨選択を行っている支部や支部専用のウェブ掲示板の利用やメールにリンクを貼るなど工夫をしている支部もありました。以前から、メール連絡が多いというご意見もいただいていたので、現在は、緊急でない限り、月曜日に支部長メールに情報を流すようになってきました。この対応により前より良くなったけれど、もう少し減らしてほしいという声もありました。他方会員であることの対価としてなるべく情報は送りたいという声もありました。

会員増強には、会員の紹介や奨学生の研究発表を設けるなど若手を引き止める工夫をしている支部や支部地域会員を募っているところ、また賛助会員には支部日より、セミナー等紹介している支部もありました。

メール情報やオンラインでの支部間交流で、大学女性協会の活動(GWI含む)や自治体との協力事業など他支部の活動がより見えるようになったという意見がありました。その他は、ホームページの活用方法や支部活動と支部規約の見直しなど意見もありました。意見共有と交流ができオンライン懇話会はとても有意義という感想をいただきました。オンライン懇話会をきっかけに、支部間の交流や協働、本部組織の理解がより深まることを願っています。四季の変わり目にまた皆様にお目にかかれそうですよ、年4回ほど予定しています。

参加支部(支部長名): 岡山(木口)、福岡(守山)、神奈川(渡部)、奈良(中道)、長崎(梅田)、京都(久保)、新潟(鈴木)、大分(藤内)、広島(吉村)、金沢(笠間)、茨城(安藤)、神戸(平井)、札幌(堀内)、東京(長谷川)、静岡(山下)

正会員の皆さまへ 役員候補者推薦のお願い

役員選考委員会委員長 西村寿美子

2022年5月第11回定時会員総会の終結をもって、JAUWの理事会の現理事および監事の任期が満了となります。

役員選考委員会は「役員選考委員会に関する規程」に従い定款第5章第22条および第25条により、正会員の皆さまに次期2022・2023両年度の理事・監事候補者の推薦をお願いし、その選考結果を会長および理事会に報告することになっております。つきましては、別便の参考資料をご参照いただき2022・2023年度（一社）大学女性協会役員候補者推薦用紙にご記入のうえ返信用封筒で**2021年12月15日**までにご返送くださいますようお願い申し上げます（当日消印有効）。大学女性協会活動の根幹を担っていただく役員、2年に一度の大切な改選です。多数の皆さまの熱意あるご推薦を心からお願い申し上げます。

大学女性協会80周年記念募金パトリア寄付者ご芳名

期間：2021年6月25日～10月31日、人数：23名、金額：202,000円
上記期間中の寄付者ご芳名（敬称略・支部別 五十音順）

（仙台）相澤富美江、若菜令子（新潟）大淵智絵、登坂美江子（茨城）松本由美子（東京）辻 英子、中村久瑠美、中山正子、縄田真紀子、三浦由紀子、村木晴子、百束礼子（神奈川）穂田信子、嶋田君枝、鷺見八重子、渡部由紀子（京都）廣田輝子（奈良）疋田洋子（大阪）森田昌代（岡山）岡本良子、近藤みち子（広島）望月ミヨコ（大分）井野暹陽子

全体期間：2021年4月30日～10月31日、延べ人数：124名、総額：1,222,000円

寄付金の振込先口座

銀行：ゆうちょ銀行 名義：一般社団法人 大学女性協会

① 払込取扱票（郵便振替）で行う場合

口座記号及び口座番号：00130-0-587701

※パトリア募金専用の払込取扱票はそのまま使用可能です

② 他行から振込の場合 ※ゆうちょ銀行口座からの振込も同じ

支店名：〇一九店 口座種類及び口座番号：当座 587701



【HA-104】

【HA-102】

「丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます」
お歳暮・お中元時期のほか、記念品・新築祝・開店祝
御礼・内祝・快気祝・各種景品等ご利用下さい

丸大食品株式会社 中央営業所特販係 担当：棚橋
〒135-0051 東京都江東区枝川2-23-2
TEL03(3647)3270 FAX03(3647)3274

JAUW 新春のつどい

昨年は中止となりました新春のつどいを、来春は下記のように開催いたします。長い緊急事態も明け、久しぶりの華やかな会になりますよう、企画しております。

沢山の皆様のご出席をお待ちしております。

日時：2022年1月8日（土）11：00～14：30

場所：新宿 京王プラザホテル 南館4F「扇の間」
新宿区西新宿2-2-1 03-3344-0111（代表）

プログラム：第一部：2021年度国内奨学金贈呈式

第二部：伊藤名佳子氏によるミニコンサート

会費：10,000円

申込先：大学女性協会 本部事務所へファクスまたはメールで
申込締切：2021年12月17日

振込締切：2021年12月27日

振込先：三菱UFJ銀行四谷支店

普通預金：口座番号1077777

別口 一般社団法人大学女性協会 理事加納孝代

キャンセルは3日前までとさせていただきます。

*当日収益事業委員会によるバザーを開催いたします

収益事業委員会より お知らせ

〈雅楽 サントリーホールにて〉

日時：2022年2月5日（土）14：00開演

出演：東京楽所 演目：「国歌歌舞 人長舞」

チケット：S席6,000円 定員20名 締切：12月14日（火）

*お問合わせ・お申込みは JAUW 事務所へ

X'mas サロンコンサート 文化事業委員会

🎤 バリトン 加来 徹 ピアノ伴奏 松岡あさひ 🎹

日時：12月22日（水）14：00開演（13：30開場）

場所：六本木シンフォニーサロン チケット：4,000円

☆若手バリトン歌手のトップランナー。シューベルト『菩提樹』、ビゼー『カルメン』から、ミュージカル「レ・ミゼラブル」から など。*お問合わせは JAUW 事務所へ

理事会から

- ▶ 9月18日、全国セミナーの下見を兼ね、委員長会議を対面とオンラインの併用で行った。
- ▶ 2021年度国内奨学生、社会福祉奨学生が決まり、11月理事会で承認された。詳細はHPをご覧ください。
- ▶ GWIの2022年度会費について話し合わせ、承認された。
- ▶ 元会長でもある中村道子先生を偲ぶ会のご案内の同封が承認された。
- ▶ 丸大ハムのカタログを同封します。ご協力をお願いします。

新入会員 理事会承認 2021年7月～10月

東京支部 石川 麻乃 岡山支部 森本 宏子

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6 パトリア信濃町テラス101

電話 03-3358-2882

FAX 03-3358-2889

https://www.jauw.org

E-mail: jauw@jauw.org

発行人 加納 孝代

編集責任者 穂田 信子

発行日 2021年11月30日